



歓迎の辞 在学生代表

学友会会長

かずし
渡辺 一充

新入生の皆さん、ならびにご父母の皆様、ご入学誠にありがとうございます。高千穂大学の新たな学生となる皆さんを心から歓迎し、在校生を代表してお祝い申し上げます。

地震の影響で入学式の開催は遅れてしまったものの、皆さんがこの場に集り、式を執り行うことができることを嬉しく思います。大学生になったばかりの皆さんの胸中は、期待と不安でいっぱいのことと思います。知らない土地、知らない人たちに囲まれてこれからの生活を送る人も多いはずですが。

そんな皆さんに、私から伝えたいことは2つです。

1つ目は大学生という立場を自覚して欲しいということ。少し厳しいことを言うようですが、大学は高校までとは違い自分の意思で決めることが多くなります。わかりやすいたとえを言うと授業がそのうちの1つです。今までは学校側が決めた時間割だったと思いますが、大学生の時間割は自分で決めなければなりません。また、卒業するまでに必要な授業を受けないと卒業することができなくなります。つまり、自分の意思で決めることが増えたということは、自分で責任を負わなければならないことも増えたということです。皆さんはもう大人です。自分の責任は自分で取らなくてはなりません。何か起きてしまった時、他の誰かのせいにすることはできませ

ん。大学生は自由ですが、自由の代償には責任があるということを自覚してください。

2つ目はさまざまなことにチャレンジしてほしいということ。皆さんは晴れて大学生となったわけですが、具体的に「これがしたい」と思っている人は多くはないでしょう。大学生の4年間という時間は限られた貴重な時間であり、それをどのように使うかは皆さん次第です。勉強に費やすのも良いですし、友人との時間を大切にするのも良いでしょう。ですが、何もしないという選択肢だけは取らないでください。ただ大学に行き授業を受けて帰るだけの生活は生産性がなく、自分自身の成長につながりません。私は第15代学友会会長を務めています。だからと言って「私は成長している」などと偉そうなことは言えません。何か新しいことをやってみてほしいのです。漠然としていても結構です。何か目標を持ち、その目標に向けて行動を起こしてください。例えばクラブ活動での活躍や資格取得を目指すのもいいでしょう。そうすることで皆さんの大学生活はより有意義なものとなり、自分を成長させてくれるものになるでしょう。

最後になりましたが、皆さんがこれから送る大学生活に幸多からんことと、良き友とめぐり合うことを心からお祈りし、歓迎の辞とさせていただきます。

大学の委員会紹介

連合教授会・委員会（敬称略）

委員会名	委員長	常任委員	委 員				
教務委員会	寺内 一	楠美 将彦 田口 和雄 徳田 治子 鈴木 隆弘	佐藤 孝一（外国語） 岡田 泰介（人文） 菅野理樹夫（自然） 鈴木 隆弘（教職） 楠美 将彦（経済・金融） 小澤 勝之（経営・起事） 田口 和雄（経営・起事）	鈴木 一成（情報） 町田 博（社会） 今野 廣隆（体育） 佐野美智子（マーケティング） 後藤 正廣（会計） 小島 庸和（法律） 徳田 治子（人間・児童）			
学生委員会	森平 明彦	大島 久幸 庄司 真人	倉茂 道德	高田 大安	松丸 啓子	長谷川万希子	中元 崇智
入試委員会	嘉瀬 英昭	石井 康彦 川名 和美 金杉 武司 櫻井 康弘	渡辺 博之	小向 敦子	藤田 泰一	新井 健之	
就職委員会	並木 雅俊	染谷 昌義 田中 正隆 西山 徹二	恩蔵 三穂	園田 哲男	降旗 徹馬	黒川 雅之	百瀬 優
海外研修・IBCS委員会	佐藤 孝一	木村 正人	大関 康博	寺内 一	松谷 明美	安本 真弓	
資格審査委員会	渋谷 栄一		小澤 勝之	林 裕二	八木沢秀記		
FD・質保証運営委員会	成田 博		降旗 徹馬 楠美 将彦 金杉 武司	後藤 正廣 庄司 真人	小澤 勝之 田口 和雄	岡田 泰介 笹金 光徳	寺内 一 徳田 治子

連合教授会・附属諸機関

	委員長・所長	委 員			
課外講座運営委員会	(委員長)竹内 慶司	尾関 夢子	渋谷 栄一	舟木てるみ	
情報メディアセンター	(所 長)鈴木 一成	笹金 光徳	永戸 哲也	河合垂矢子	
アジア研究交流センター	(所 長)恩蔵 三穂	新津 重幸	藤井 耐		
総合研究所	(所 長)藤芳 明人	後藤 正廣	小澤 勝之	岡田 泰介	(各プロジェクトリーダー)
図書館運営委員会	(館長・委員長)内堀 節夫	小島 庸和	松崎 和久		

特別委員会

	委員長	委 員			
教員評価・倫理委員会	学 長	藤井 耐	倉茂 道德	渋谷 栄一	
教学事項自己点検実施委員会	学 長	降旗 徹馬	寺内 一	森平 明彦	嘉瀬 英昭
		内堀 節夫	藤芳 明人	恩蔵 三穂	鈴木 一成
		小澤 勝之	岡田 泰介	林 裕二	
				並木 雅俊	後藤 正廣

新任教員紹介



商学部 教授

高田 大安
(たかだ ひろやす)

Hiroyasu Takada

昨年の夏休みに訪れたベルギーにて

高田大安(たかだ ひろやす)と申します。日本銀行で28年間勤務した後、地銀、独立行政法人で資産運用担当役員を経験しました。銀行経営、金融問題が専門です。どうぞよろしく申し上げます。

最近の金融市場は、グローバルな要因で大きく変動するため、年1回、現地視察を心がけています。昨夏は、ギリシャの債務危機で円が対ユーロで106円の最高値(2002年初のユーロ紙幣発行以降をいう。)を付けた時節に、ベルギー、フランス、ドイツを4泊5日の駆け足で旅行しました。

しかし、最終日になって、訪問地に大きな漏れがあることに気付きました。ワテルローです。ブリュッセルのホテル

ルからわずか10数キロのところに位置していました。1815年の「ワテルローの戦い」は、ナポレオン軍がイギリス軍と雌雄を決した戦いで、金融界では、特別な伝令手段を使い、イギリス軍の勝ちをロンドンの人々より1日早く知ったロスチャイルドが、英国債を底値で買上げて空前の大儲けをしたエピソードが有名です。

帰国して、後悔しながら地図を眺め、ワテルロー近隣を列車で通過した印象を絞り出すように思い出し、あのナポレオンが何故あのような平坦地で敗退したか悩んでみました。

ロスチャイルドの家訓は「語るなかれ」で、依然、詳細は闇の中ですが、日本のナポレオン研究の権威である両角良彦さん(元通産事務次官、元日銀政策委員)からサイン入りで頂戴した「1812年の雪 モスクワからの敗走」(朝日選書)を読み返してみると、結びの文章に「(ナポレオンは)1812年を境に歴史の坂道を果てしなく転がり落ちていった己の運命をすでに達観していたのかもしれない…」とありました。ロスチャイルドはナポレオンの指揮能力、気力の低下を周辺情報でかなり早くから見抜いて相場を仕掛けていたのではなかろうか。それが現時点での自分なりの結論です。

私は、解けない疑問があると「しつこく追及する性格」(妻の形容)のようです。どうぞよろしくご承知おきください。



経営学部 教授

藤芳 明人
(ふじよし あきひと)

Akihito Fujiyoshi

高千穂大学における私の使命

私は今年8月で54歳となり、短大・大学での専任教員として26年目となります。前任校11年間の勤務において、関係者皆様のお力添えをいただき、平成20年に『解説 企業経営学』、平成22年に『解説 経営管理』を執筆することができました。

テイラーやファヨールは、工場管理や企業経営の暗黙知とされる管理を形式化したのであります。その研究成果がテイラーの「課業管理」やファヨールの「管理の要素」と「管理原則」なのです。研究面においては、マネジメント・経営管理の学問として経営学を探究し、「経営」や「管理」の

暗黙知を少しでも多く形式化できれば良いと考えております。

それと同時に、大学教育に真正面から取り組む所存であります。その理由は、高千穂大学が私の人生における最終的な勤務校となりますので、微力ではありますが、大学と大学教育の発展に少しでも貢献することこそが、私の使命と考えております。

昨今、世間は大学に即戦力の人材育成を求めています。それに対応する必要性は認めますが、今日役立つ即戦力の人材ではなく、明日に役立つ人材を育成することが、私は大学の本質的教育だと思います。現代は変化社会であり、イノベーションの時代です。だからこそ、原点に立ち帰って大学教育に取り組むことが重要なのです。

そして、本学の学生が社会に出たら、「常に半歩先立つ進歩性」という建学の精神を実践できるリーダーとして活躍できる人間に成長してもらいたいと願っております。

そのためには、諸先生方と事務職員の方々からのお力添えと協力が必要不可欠であります。やや大風呂敷をを広げてしまいましたが、私は旅行・ゴルフ・宝塚歌劇を趣味とする名前(明人)の通り明るい人間であります。どうぞ公私に渡り、末永いお付き合いをよろしくお願い申し上げます。



商学部 准教授

中元 崇智
(なかもと たかとし)

Takatoshi Nakamoto

歴史学から現在について考えよう

現在、紙幣を飾る人物は樋口一葉などいわゆる「文化人」です。しかし、戦後しばらくは政治家も多く登場しました。その一人が戦後民主主義のいわば象徴として登場した明治時代の政治家板垣退助です。板垣は本学創立者川田鐵彌先生と同じ土佐(高知県)出身であり、日本最初の政党自由党を結成しました。日本史の教科書では板垣が明治15年岐阜遭難時に発したとされる「板垣死すとも自由は死せず」の「名言」とともに登場します。

私の研究テーマは日本近代史、特に板垣退助とそのグループの国家構想・経済政策の分析です。明治時代は現在と同じく、江戸幕府の崩壊、明治新政府の成立、立憲制度の確立といった激動の時代でした。私は混迷する現在の日本政治・政党に対して、明治期の政党のリーダーはどのような国家ビジョン・経済政策を持っていたのだろうか、といった問題関心から研究を始めました。そして、板垣たちが「海運通商」を国家目標とする通商国家を目指していたことを論じ、現在の通商国家日本のルーツについて考えてきました。

私は今年度教養科目の日本史と教職専門科目の社会科・地理歴史科教育論、社会科・地理歴史科指導法を担当します。特に、多くの学生の皆さんとお会いするのは日本史の講義でしょう。歴史学は古人の残した史料から過去の出来事を解明する学問ですが、決して過去の解明にとどまるだけでなく、現在のさまざまな問題に対してもヒントを与えてくれます。そして、私が担当する日本史の講義では政治だけでなく、広く社会や文化についても、現在との接点を視野に入れて取り扱っていきます。その中で、高校までの「暗記」ではない「考える」日本史と一緒に学びませんか。きっと歴史学は現在を生きる豊かな教養と多様な視点を与えてくれると思います。



人間科学部 准教授

鈴木 隆弘
(すずき たかひろ)

Takahiro Suzuki

善き市民を育成するため 学校・大学・教育ができること

私は、学校教育における、生活科・社会科・公民科という社会系教科を対象として研究しています。この社会系教科を貫く目標の一つに「善き市民を育てること」をあげることができます。私は公民教育分野において、その「善き市民」をどう育てるのかについて研究しています。

ここで「善き市民」とは、どのような市民なのかについて考えてみましょう。犯罪を企まない市民は、善い市民でしょう。では、他人が困っている時にはどのような反応をすると善い市民なのでしょうか。苦悩はしてくれても、手助けしてくれない隣人は単なるナルシストかもしれません。最近、マイケル＝サンデル

によって正義論がブームです。彼が正義追求のために討論を重んじるのは、市民の理想像も、その理想の市民によって作られる社会のイメージも、一人一人異なっているからです。サンデル達のように、「善いこと」が何であるかを考え、討論することが哲学という学問だとすれば、「善いこと」が何であるかを考えるために必要な知識や考えようとする態度、その知識や態度をより市民としてふさわしい方法で身につけさせるのが公民教育なのです。

かつての日本では、貧困は正義に反すると考えられており、善き市民にとって克服すべき対象でした。社会科でも貧困について生徒自ら考え、行動することは、教科としてのアイゼンティティといえるものでした。その時教員には、善き市民を目指し苦悩する生徒に寄り添い生きると同時に、自らもまた善き市民として生きることが求められていました。このような善き教員の育成が私自身の実践目標であり、その実践方法について貧困問題を軸にして探ることが、現在の研究課題となっています。

高千穂大学では、「平和的国際人」などが学風の目標として掲げられています。この「平和的国際人」とは具体的にどのようなことを意味するのでしょうか。それを一人一人が考え、定め、行動していく必要があります。学生のみなさんが、それぞれの〈善き理想像〉を見つける、そのお手伝いをできたらと考えています。

白根セミナーハウス

ここにしかない四季があります。

- 北を仰ぎ見れば、白い綾線の美しい草津白根山、少し歩けば、雄大な浅間山もその噴煙とともに望むことが出来ます。
- さわやかな風、すんだ空気、素晴らしい自然のキャンパスの中で、ゼミナル合宿、学友会活動等の場として広く利用されてきました。
- 自然のキャンパスに仲間が集う時、教師も学生も一体となった感激を味わうことができるにちがいありません。



長年にわたりセミナーハウスの管理人をお願いしている戸部ご夫妻



学友会セミナー風景

送迎バス	万座・鹿沢口駅～セミナーハウス間の送迎をおこなっています。利用希望者は、申し込み時に総務部に申し出て下さい。(24人乗り)
申込方法	予約は、2ヶ月前の日より受け付けます。使用日の1週間前までに料金を添えて、総務部まで申し込んで下さい。
定休日	毎週水曜日が定休日ですので、計画を立てる際にはご注意ください。
施設	収容人員50名 客室8室(エアコン、テレビ完備) 食堂50席 駐車場10台 セミナールーム 野外バーベキュー(5月下旬～9月末) テニスコート バドミントンコート 卓球台
利用料金(1泊2食付)	学生 2,500円 一般(含卒業生)4,000円
取り消し及び変更	使用日の3日前までに総務部(TEL 03-3313-0141)までご連絡下さい。それ以降の取り消しは、原則として利用料金の払い戻しはおこないません。

利用者心得

- ①チェックイン13:00 チェックアウト10:00
- ②公共利用場所(食堂等)の使用は21:00までとする。
- ③利用者は、使用許可書を管理人に提出し、宿泊者名簿に必要事項を記入のうえ、部屋割を受けること。
- ④利用者は、管理人の指示に従い部屋の清掃、整理、整頓、食器の後片付け等は各自で行うこと。
- ⑤施設、備品等を使用するときは、あらかじめ管理人に届け、指示に従うこと。破損した場合は、その実費を弁償すること。
- ⑥火気には特に注意し、喫煙者はマナーを守ること。
- ⑦施設内の風紀、秩序を乱したり、他人の迷惑となる行為をした者は以降の使用を禁止する。

- 所在地 〒377-1712 群馬県吾妻郡草津町前口3-107 TEL 0279-88-4026
- 交通 上野より(直通又は渋川乗り換え吾妻線)万座・鹿沢口駅下車、送迎バスがあります。(約20分) 関越自動車道、渋川・伊香保ICより約1時間 上信越自動車道、碓井軽井沢ICから鬼押ハイウェイでの利用も可能

※東日本大震災の影響で営業を見合わせていましたが、6月より再開いたします。
<http://www.takachiho.jp/campus/seminarhouse.html>

コンピュータ室の利用について

授業の空き時間を利用し、コンピュータ室の開放を行っています。開放時はコンピュータ室内のパソコンを学習・研究のために利用することができます。

パソコンの利用には、「TAKACHIHONET利用者証」が必要です。利用者証を紛失した場合などは、情報メディアセンター事務室で再発行の手続きを行ってください。

コンピュータ室開放の予定は、情報メディアセンターのホームページや学内設置の開放教室案内モニター(5号館1階と2号館3階の廊下)でお知らせしています。

＜コンピュータ室開放時間(長期休業中を除く)＞

平日 9:00～20:00
土曜日 9:00～15:00

*都合により閉室になる場合や開放時間が短縮になる場合があります。最新の情報はホームページや開放教室案内モニターで確認してください。



機器の貸出しについて

情報メディアセンターでは、ノートパソコンなどの機器の貸出しを行っています。貸出し期間は7泊8日以内。貸出しの際は「情報メディアセンター利用者票」が必要です。

借受けた機器を紛失したり、損傷させた場合は弁償となります。機器の取り扱いには充分注意して利用してください。

＜主な貸出し機器＞

- ノートパソコン(Let's Note シリーズ) 80台、
- デジタルカメラ 5台、デジタルビデオカメラ 6台、
- プロジェクタ 3台、ポータブルHDD 5台

無線LANの利用について

本学には約70カ所に無線LANのアクセスポイントが設置してあり、学内ほぼ全域で無線LANの電波を受信することができます。無線LANを利用することにより、個人のノートパソコンや情報メディアセンターで貸出しているノートパソコンでインターネットや学内ネットワークに接続することができます。

個人のノートパソコンを無線LANに接続するにはパソコンの設定が必要です。設定方法は「情報メディアセンター利用の手引き」の第6章キャンパスLAN/情報コンセントを参照してください。

図書館

無限の可能性を求めて

大学の4年間は、君たちの人生において最も大切な時期です。大学で学ぶべきことは人としての広い教養と深い専門知識です。高千穂大学図書館では、社会科学系資料を中心に、図書241,000冊、雑誌1,787誌、視聴覚16,945点を所蔵し、電子データベース・ジャーナル15種を揃え、学生諸君の知的好奇心に応えています。知的好奇心を満足させることができる空間は図書館にはあります。この空間に無限の可能性を求めて来館することを望みます。

平成23年4月 図書館長

施設・設備

2号館の1階、2階、地下1階が図書館です。1階は情報検索用パソコン33台、2階は蔵書検索用パソコン4台があります。169席の学習机、またグループ学習室があります。



図書館開館時間

平日 9:00~21:30
土曜日 9:00~18:00
日曜日 10:00~18:00



所蔵資料

図書

- 一般図書(カリキュラム構成に沿った教養図書及び専門図書です。)
- 参考図書(辞書・事典・年鑑・白書・統計などがあります。)
- 指定図書(教員が授業に関連して学生に必読するように指示した図書です。)
- 会社史(本学では国内企業発行の5,400冊を所蔵しています。)
- ガンバレ高千穂(資格取得・就職試験・面接対策用図書です。)
- 文庫本(岩波文庫・中公新書・日経文庫などです。)
- 高千穂文庫(高千穂学園関係者の著作物です。)
- 貴重書庫(社会科学分野における貴重図書を保管しています。)
- 杉並区が掲げているアニメ産業の発展支援事業に呼応し、アニメ(コミック系)が1階に設置されています。

視聴覚資料

社会科学系の資料を中心に劇場版映画等、約4,787点を所蔵しています。プロジェクトXやガイアの夜明けなどのドキュメンタリー番組も揃えています。

雑誌・紀要

約400タイトルの和雑誌を約230タイトルの洋雑誌を毎年受け入れています。また、大学の紀要(教員の研究論文を掲載した定期刊行物)も多数所蔵しています。

オンラインデータベース

新聞記事検索、英語能力判定テストなど多くのオンラインデータベースを利用できます。図書館のパソコンはもちろん、学内設置のパソコンであればアクセス可能です。データベースとジャーナルの2種類があり、データベース名は以下のとおりです。

オンラインデータベース一覧

	データベース名	内容
データベース	GeNii : Nii学術コンテンツ・ポータル	国立情報学研究所が提供している目録所在情報サービス、情報検索サービス、電子図書館サービス等を利用し、図書・雑誌・論文情報や研究情報等を入手することができます。
	MAGAZINEPLUS	雑誌記事索引、論文集、講演集、学会年報、研究報告等の記事情報が検索できます。
	日経テレコン21	日本経済新聞、日経産業新聞、日経流通新聞の全文記事データベースです。
	聞蔵Ⅱビジュアル	朝日新聞の全文記事データベースです。
	ヨミダス文書館	読売新聞の全文記事データベースです。
	eol	有価証券報告書総覧全ページをイメージデータで見ることができます。上場・店頭会社のほか、非上場会社の一部も収録しています。
	JapanKnowledge	日本大百科事典、大辞泉、和英・英和辞典等をはじめとする20種類以上のコンテンツを利用することができます。
	CASEC	インターネットを使った英語コミュニケーション能力テストです。利用にはID・パスワードの登録が必要です。総合カウンターに問い合わせてください。
	LEX/DB INTERNET	TKC法律情報データベースサービスのインターネット版です。民事法、民事特別法、公法、広報、社会経済法、刑事法すべての法律分野の判例を収録しています。
	官報情報検索サービス	官報の本紙、号外、政府調達広告版、資料版、目録を検索することができます。
ジャーナル	Journal web	本学で購読している洋雑誌はこちらの検索サイトから電子ジャーナルとして閲覧することができます。※ただし出版社により公開していないものもあります。
	JSTOR	Arts&Sciences およびBusiness Collectionとして収録した洋雑誌のバックナンバーです。創刊号から閲覧できます。
	InfoTrac Custom Journals	Gale社が提供する雑誌データベースの中から選択した約250誌のデータを閲覧できます。
	日経BP記事検索サービス	日経BP社が発行する約40誌の雑誌記事を閲覧できます。

大学図書館の役割は2点あります。第1は大学における知識の集約点です。図書館には古今東西のあらゆる分野の知識が書の形を通して集約されており、学生・教職員にとって研究・教育の上で不可欠の施設です。第2は情報の集約点です。図書館はコンピュータネットワークで、国内・海外の大学や研究施設とつながっており、あらゆる分野の情報が入手できます。こうした図書館の機能は単に集約されただけではなく、活用されなければなりません。

本学図書館は25万冊・点を超える図書と、約1,800タイトルの雑誌を所蔵しています。ほとんどが開架方式のため求める資料は自由に手に取ることができるようになっています。また、これらは図書館のホームページから検索ができます。学生のみなさんは図書館をよりよく活用して、充実した学習・研究活動を送ってください。